

2011年(平成23年)3月4日(金曜日) 日刊

●サーツII建築物の長寿命化シンポジウム

NPO法人建築技術支援協会(Psats サーツ)は2月24日、シンポジウム「建築物の長寿命化―建築機能の再生・向上を目指して」を東京都千代田区の3331Arts Chiyoda(旧千代田区立練成中学校)で開き、「都市を構成する建築物」に着目し、コンバージョンによる地域活性化などといった課題への対応について、建築の専門家らが見解を交わした。



が(その建物で)何を展 示するための場(介護、環 境、人材育成関連など) 開いたのが前提。コ ンバージョンが第一義で はない」と指摘。つくっ たりすべきとの見解を示 した。

サーツ代表理事で東京 大学教授の松村秀一氏 写真IIは、「建築物の長 寿命化―建築機能の再生 向上を目指して」をテ ーマに基調講演した。そ

と、将来に向けた建築の きとの考えを強調した。 ンによる建築機能復活・ 表現を自由に発信する場 所」として、旧練成中学 校を改修し昨年6月にオ ープン。事業の企画をは じめ、施設の改修と運営 は、区が公募で選定した 運営団体「合同会社コマ

「転用」で地域活性化を

の中で、「日本の街は建 築物(ストック)が余っ ている。長寿命化に取り 組む以前に、経済に活力 がなくなり、壊されなく なる時代が来る。実際に (アート)をコンセプトに たが、そうではない。街

さらに、「その時、重要 になるのは『利用の構想 の提案』などについて各 区は、バリアフリー対策 など建物改修工事費の一 部を補助。施設内にはギ ャラリー、カフェ、会議 室、スタジオ、アトリエ などがある。